

## サステナブル・リアリティ

小幅にアウトパフォームするなか、流入額はわずかなプラスにとどまる

### 概要

グローバル全体で運用されているサステナブルファンドの運用資産額(AUM)は、2023年末比で3.9%増の3兆5000億ドルとなり、過去最高を更新しました。運用資産総額の7.0%であり、2023年末時点の7.2%から若干減少しています。

Morningstarのデータによれば、サステナブルファンドへの資金流入は2024年上半期に全体的に200億ドル(前年末AUM比0.6%)増となりました。しかし、第2四半期はわずかにマイナスとなり、5月の流出額は6月に一部回復したのみとなりました。ファンド開示の遅れにより上記データは修正される可能性があります。サステナブルファンドへの四半期ごとの流入額が長期間にわたりプラスを維持してきたことと相違しています。また、上半期の従来型ファンドの需要が堅調で、資金流入が前年末AUMの2.5%増となったのとは対照的です。

地域別に見ると、北米籍のサステナブルファンドは引き続き資金流出が続きました(前年末AUMの3.6%減)が、欧州籍のサステナブルファンドへの資金流入(AUMがはるかに多いことを背景に1.1%増)があり、減少を相殺しました。しかし、ファンドの登録地(籍)ではなく投資地域に注目すると、資金流入の地域的な状況は様子が違います。欧州、南北アメリカなどグローバル各地で投資するサステナブルファンドは、前年末AUM比約1%増という小規模な資金流入となりました。

サステナブルファンドの2024年上半期のリターン中央値は+1.7%で、従来型ファンドの+1.1%をわずかに上回りました。サステナブルファンドは株式ファンド(サステナブルファンドおよび従来型のファンドの両方において、期間中のパフォーマンスが最も高かった資産クラスであり、サステナブルファンドのユニバースの大部分を占める)が多くを占め、それが相対的なパフォーマンス向上の主要因となりました。下方偏差を用いて計算したボラティリティの低下も要因となりました。

最も高いリターンと最も顕著な相対的アウトパフォームは南北アメリカ地域で見られ<sup>1</sup>、同地域に投資するサステナブルファンドのリターン中央値は+8.8%(従来型ファンドは+3.4%)で、グローバルファンドは+2.2%、欧州に重点を置いたファンドは-0.1%でした。

### 重要ポイント

1 サステナブルファンドの運用資産残高は3.5兆ドルに増加したが、流入額はわずかなプラス>

2 特定の資産クラスへのエクスポージャーと低ボラティリティによる、小幅なアウトパフォーム>

3 補足>

■ 地域: 欧州ファンド>

■ リターン中央値、下方偏差、長期リターン>

■ 株式および債券ファンドのスタイル>

■ ネガティブ・スクリーニング>

<sup>1</sup>「南北アメリカ」は、北米と南米をあわせて意味します。



## 集計方法

このレポートは、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の「サステナブル・リアリティ」シリーズの一部です。同シリーズでは、Morningstarのデータを使用して、特定の期間における従来型ファンドに対するサステナブルファンドの過去のパフォーマンスを評価しています。本レポートでは、2024年1月1日～2024年6月30日のパフォーマンスを分析しています。

この分析の対象となるファンドは、クローズドエンド型ファンド、上場投資ファンド(ETF)、オープンエンド型ファンド(最も古いシェアクラス)です。フィーダー・ファンド、ファンド・オブ・ファンズ、マネー・マーケット・ファンドは除外しています。この分析では、グローバル全体で約9万9000件のファンドを対象としました。

Morningstarがファンドをサステナブルに分類する基準は、「目論見書またはその他の規制当局への提出書類において、持続可能性、インパクト投資、または環境、社会、ガバナンス(ESG)の要素に焦点を当てていると説明があり、ファンドはサステナビリティ目標を設定し、および／または投資選択に拘束力のあるESG基準を採用する必要があります。限定的な除外のみを採用したり、ESG要因を拘束力のない形で考慮するだけのファンドは、サステナビリティ投資商品とはみなされません」とされています。

この分析では、各ファンドについて、6月30日時点(上半期版)または12月31日時点(通年版)のファンド分類を採用します。ファンドを含めるためのパラメータは変更されませんが、最新の日付でファンドの分類を行うと、ファンドのユニバースは変更される可能性があります。すべての過去のデータポイントは、現期間における分類に基づいて再集計されています。

サステナブルファンドとは、Morningstarが「サステナブル」と分類するファンドであり、欧州サステナブル・ファイナンス開示規則(SFDR)の第8条および第9条の定義(より新しく、より広範な定義)とは異なる場合があります。Morningstarは、第9条ファンドの99%以上をサステナブルファンドに分類していますが、第8条ファンドでは、この分類に当てはまるのはわずか30%程度です。従来型ファンドは、Morningstarによって「サステナブルではない」と分類されるファンドです。

Morningstarのトータルリターンは%表示で、毎月算出決定されます。毎月の純資産価値の変動を算出し、その月のすべての収益とキャピタルゲインの分配を再投資し、開始時の純資産価値(NAV)で除すことで算出します。すべてのリターン数値は、従来の「サステナブル・リアリティ」と同様に、リターン中央値を指します。

特にアジア籍のファンドの場合、ファンドがMorningstarにデータを報告するまでに数週間から数か月のタイムラグが生じる可能性があります。また、最新の開示に反映するために、以前の期間の数値の一部が修正される場合があります。これが以前の分析について重要である場合、その影響は文章で記載されています。前期の数値も今後、小幅な修正の対象となる可能性があります。このレポートに使用されているデータは2024年8月3日に収集されたものです。

「サステナブル・リアリティ」のバックナンバーでは、ファンドの登録地(籍)に基づいて地域データを取り上げてきました。2024年2月版と同様に、本レポートではこの内訳を維持して、ファンドの投資地域に基づくデータを別途追加しています。たとえば、欧州籍のファンドは、グローバルな資産に投資する可能性があります。

### お問い合わせ

レポートに関するご質問は、サステナブル投資研究所の運用チーム ([globalsustainability@morganstanley.com](mailto:globalsustainability@morganstanley.com)) までお問い合わせください。

本レポートのようなインサイト資料をメールで受け取るには、[こちら](#)をクリックして、サステナブル投資研究所のニュースレターを購読してください。

# サステナブルファンドの運用資産残高は3.5兆ドルに増加したが、流入額はわずかなプラス

サステナブルファンドへの資金流入は引き続き若干のプラスで前年末AUMの0.6%増となりましたが、第2四半期はわずかなマイナスで0.1%減でした。ファンド開示の遅れによりフローデータは修正される可能性があります。サステナブルファンドへの四半期ごとの流入額が長期間にわたりプラスを維持してきたことと相違しています。従来型ファンドへの資金流入は堅調で、前年末AUMの2.5%増となりました。地域別に見ると、北米籍のサステナブルファンドは前年からのトレンドで若干の資金流出(2024年上半期に、前年末AUMの3.6%減)が続く一方、欧州籍(1.1%増)とアジア籍(1.2%増)のサステナブルファンドは資金流入となりました。サステナブルファンドの運用資産額(AUM)は、2024年6月末現在で3.5兆ドル、2023年末比で3.9%増となり、過去最高を更新しました。

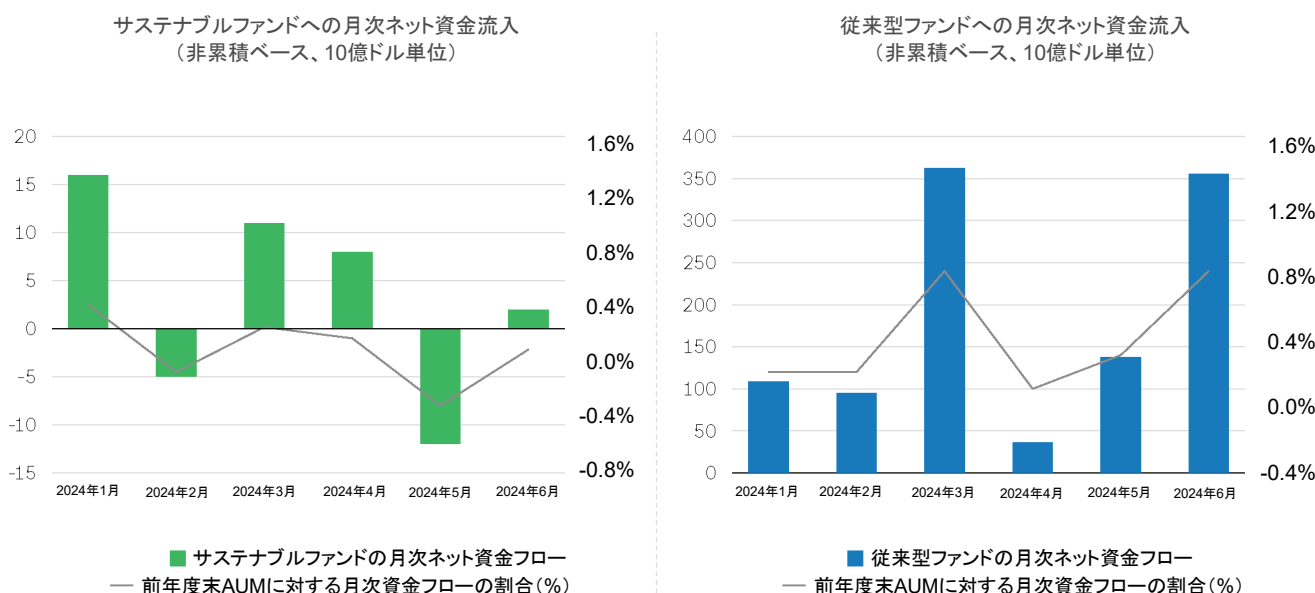
## サステナブルファンドへの流入はわずかにプラス、しかし第2四半期は弱く、従来型ファンドへの流入には及ばず

全体として2024年上半期にはサステナブルファンドに200億ドルの小規模な資金流入がありましたが、これは前年度末AUMの0.6%に相当します。これは、2022年と2023年の通年流入額がいずれも1000億ドルを超えたここ数年の流入額のペースと比較すると、著しく遅いものです。この数字には、2024年第2四半期のわずかな減少(20億ドル減)が含まれています。北米籍のサステナブル

ファンドは引き続き資金流出が続いており、上半期の資金流出額は120億ドルの減少となりましたが、一方で欧州籍のファンドが資金流入の主な原動力となりました(320億ドル増、ただしこれはすべて第1四半期に発生)。前年までのトレンドとは逆に、従来型ファンドへの資金流入はサステナブルファンドへの資金流入を上回り、2024年上半期の流入額は前年末比2.5%増となりました。

図1

### 2024年上半期の資金流入は従来型ファンドがサステナブルファンドを上回った

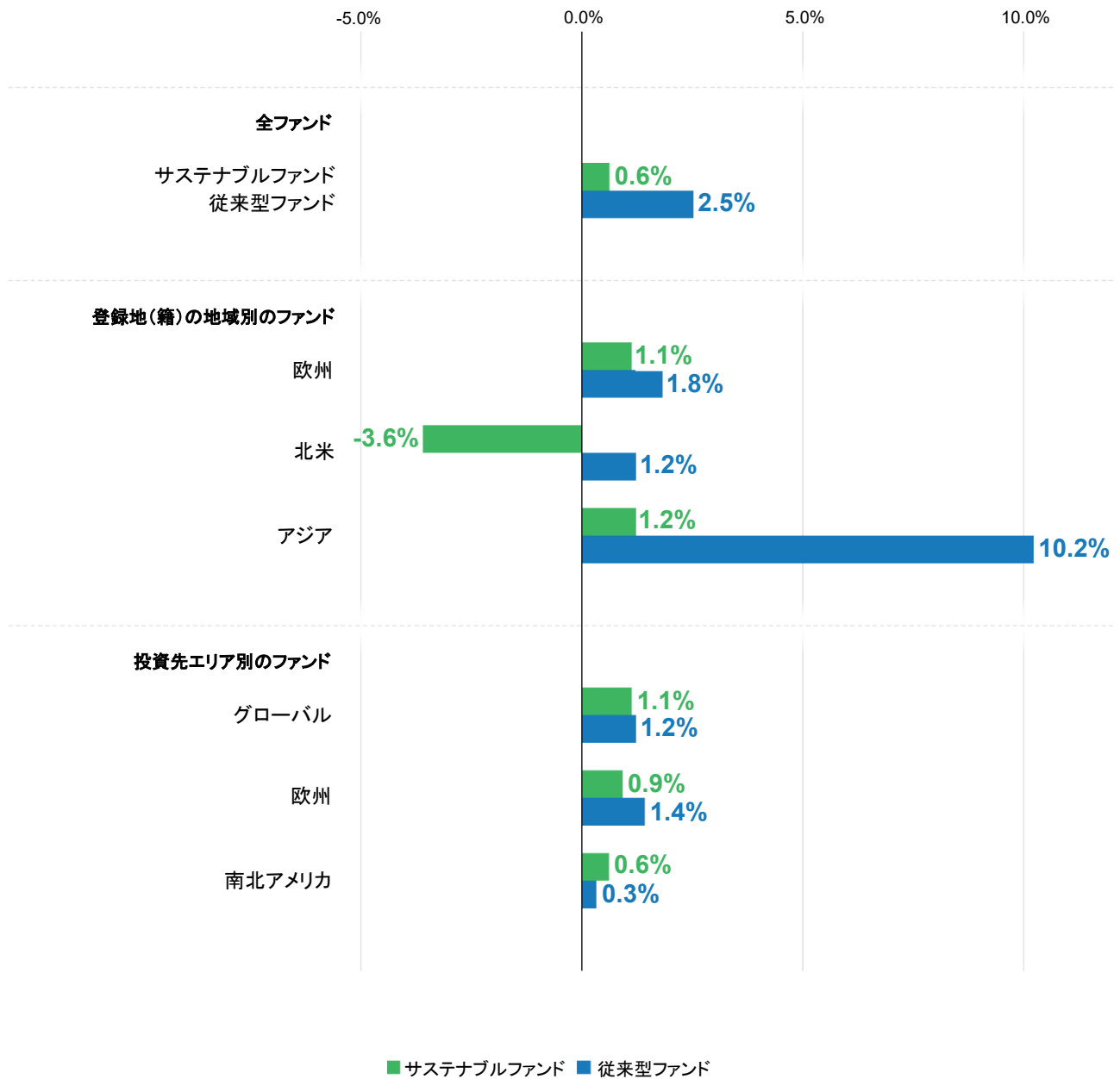


出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

図2

### 北米籍ファンドを除き、ほとんどの地域でサステナブルファンドへ小幅な資金流入

2024年上半期のネット資金フロー、前年末AUMに対する割合(%)



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

## サステナブルファンドのAUMは2024年6月までに 緩やかに増加し、過去最高を更新

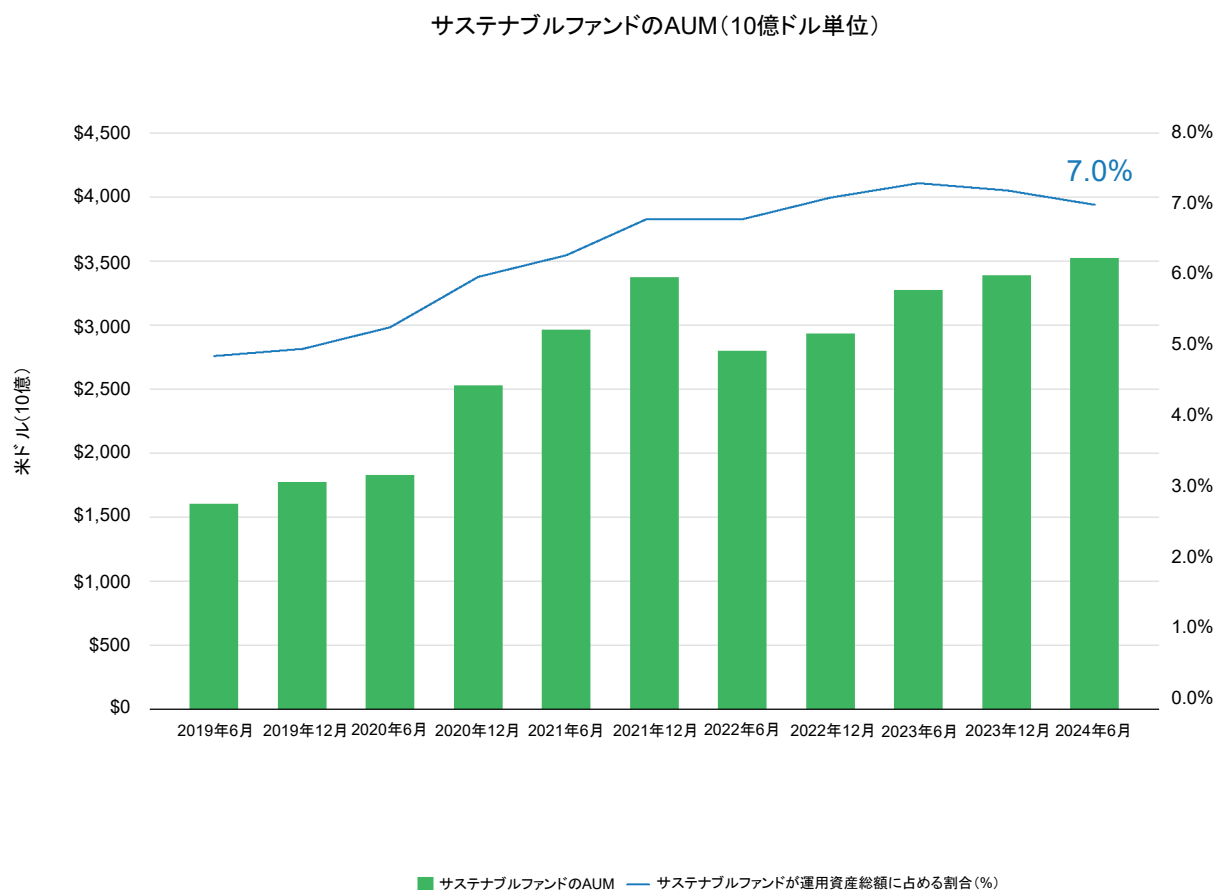
サステナブルファンドのAUMは2024年6月末までに3.5兆ドルに達し、2023年末から3.9%増、前年同期比7.7%増となり、過去最高を更新しました。これはグローバル全体の運用資産総額の7.0%に相当し、2023年末の7.2%、2023年上半期の7.3%よりわずかに減少しており、主に従来型ファンドのユニバースへの資金流入増加を反映しています。

# 7.0%

運用資産総額に占める、サステナブルに分類された運用資産の割合(2024年6月現在)。

図3

### サステナブルファンドのAUMは2024年6月現在3.5兆ドルで、運用資産総額の7.0%を占める



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

# サステナブルファンドは特定のアセットクラスのエクスポージャーが寄与して若干のアウトパフォーム

サステナブルファンドは、2024年上半期に従来型ファンドをわずかに上回るパフォーマンスを達成しました。サステナブルファンドのユニバースに大きな割合を占めている、株式のリターン向上が主な原動力となりました。

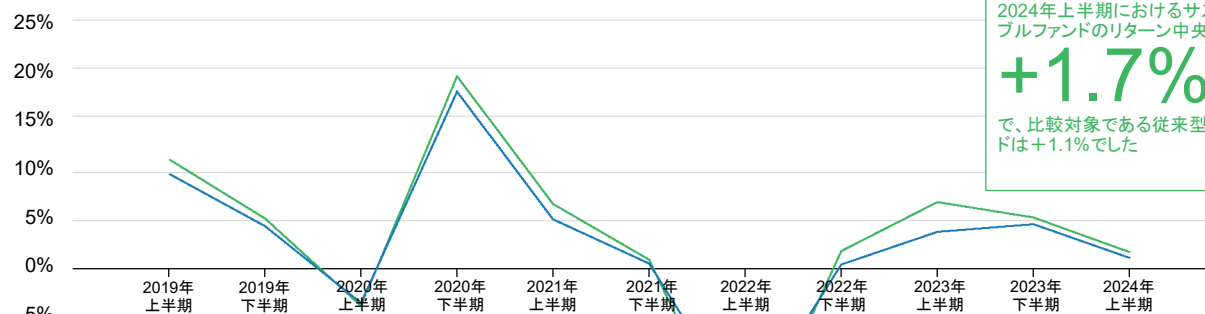
2024年上半期におけるサステナブルファンドのリターン中央値は+1.7%で、比較対象である従来型ファンドは+1.1%でした。サステナブルファンドの良好なパフォーマンスは、主に株式投資へのオーバーウェイトが寄与しました。株式ファンドについて、サステナブルファンドのこの期間のリターン中央値は+5.2%で、従来型の株式ファンドの+5.1%とほぼ同水準です。「その他」のファンド(マルチ・アセット、不動産、コモディティ、オルタナティブ)についても同様のリターン中央値(サステナブルファンドでは+0.3%、従来型ファンドでは+0.4%)となりました。債券では、サステナブルファンドのリターン中央値は-1.7%となり、従来型ファンド

の-0.4%を下回りました。しかし、サステナブルファンド全体に占める株式ファンドの割合は、従来型ファンドの39%に比べて57%と大きいことから、株式ファンドの好調なパフォーマンスが、サステナブルファンドの全体的なアウトパフォームに貢献しました。また、サステナブルファンドは従来型ファンドに比べて下方乖離が良好でした。下方乖離は、複数ファンドで構成されるセットひとつについて、選択されたベンチマークを下回る可能性の尺度となります。リターン中央値の分布と下方乖離に関する詳細およびチャートについては、[補論](#)の9ページをご参照ください。

図4

## 2024年上半期、サステナブルファンドは従来型ファンドをわずかにアウトパフォーム

リターン中央値、サステナブルファンドと従来型ファンドの比較



2019年 上半期	2019年 下半期	2020年 上半期	2020年 下半期	2021年 上半期	2021年 下半期	2022年 上半期	2022年 下半期	2023年 上半期	2023年 下半期	2024年 上半期
11.3%	5.2%	-3.9%	20.0%	6.7%	0.9%	-20.1%	1.8%	6.9%	5.3%	1.7%
9.8%	4.4%	-3.6%	18.4%	5.1%	0.5%	-15.4%	0.4%	3.8%	4.6%	1.1%
154 bps	77 bps	-35 bps	165 bps	163 bps	41 bps	-468 bps	141 bps	310 bps	66 bps	67 bps

■ サステナブルファンド ■ 従来型ファンド ■ サステナブルファンドと従来型ファンドの差異(単位bps)

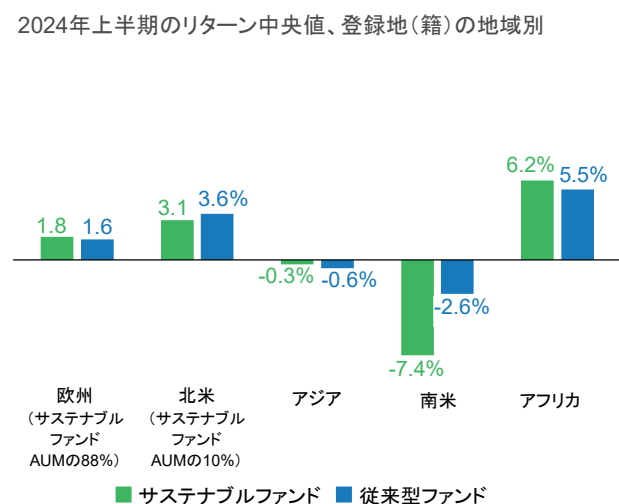
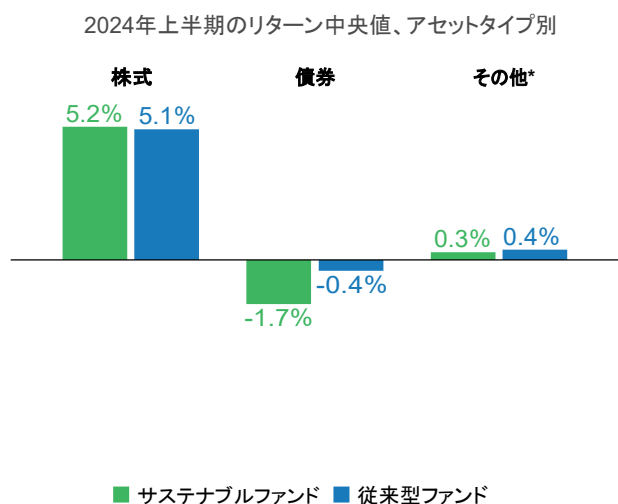
出所：モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。表は、ベースポイント (bps) でデータ表示、10bpsは0.1%に相当します。

投資地域の地域区別にファンドを見ると、グローバルまたは欧州に投資するサステナブルファンドと従来型ファンドのパフォーマンスはほぼ同水準でした(図5)。この2つの地域区分を合わせると、サステナブルファンドのAUMの75%以上を占めています。南北アメリカ(サステナブルファンドAUMの14%)ではその差がより顕著で、サステナブルファンドのリターン中央値は+8.8%であったのに対し、従来型ファンドは+3.4%でした。過去の期間では、株式および債券型ファンドのスタイル(バリュー対グロースなど)が、相対的なリターンに影響を与えてきました。しかし、2024年上半期は、これは大きな要因とはなりませんでした。

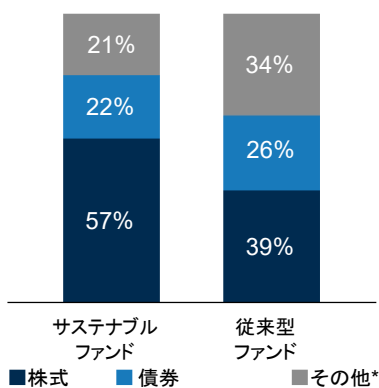
地域別のパフォーマンスは、ファンドの登録地(籍)を考慮した場合、サステナブルファンドのアウトパフォームの主な要因とはなりませんでした。欧州籍のファンド(サステナブルファンドAUMのほぼ90%を占める)のリターン中央値は、サステナブルファンドが+1.8%、従来型ファンドが+1.6%でした。北米籍のファンド(サステナブルファンドAUMの10%)では、サステナブルファンドは若干のアンダーパフォームとなり、リターン中央値は+3.1%で、従来型ファンドは+3.6%でした。他の地域では、サステナブルファンドのパフォーマンスが大幅に上回ったり下回ったりしましたが、これらはユニバース全体に占める割合は非常に小さいものでした(図5)。

図5

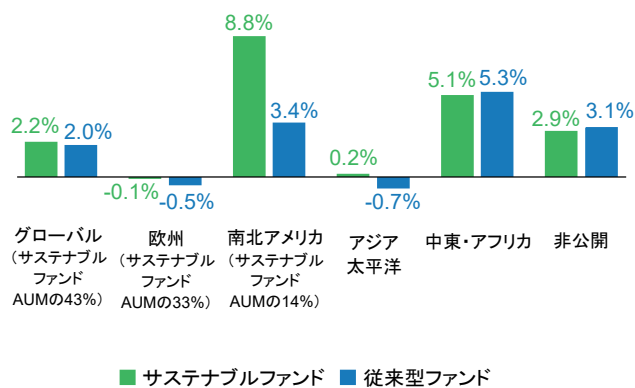
### サステナブルファンド、株式への多めの投資が相対的なアウトパフォームに寄与



アセットクラス別のファンド数の内訳、2024年上半期



投資地域別のリターン中央値、2024年上半期



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。  
\*「その他」のファンドタイプには、マルチ・アセット、不動産、コモディティ、オルタナティブが含まれます。

# 補論

## 地域別の焦点: 欧州籍ファンド

欧州籍のファンドは、グローバルなサステナブルファンドAUMの88%を占めていますが、AUMの投資対象を欧州限定としているものは33%にすぎません。欧州籍のサステナブルファンドの2024年上半期リターン中央値は+1.8%で、従来型ファンドの+1.6%をわずかに上回りました。

欧州のサステナブル・ファイナンス開示規則 (SFDR) は、アセットマネージャーに対してESGに関する開示を義務付けており、サステナブルな投資戦略に関する透明性を高めることを目的としています。2023年1月1日に全面施行されたSFDRの分類システムによると、ファンドは第6条 (サステナブルと関係のないファンド)、第8条 (環境性・社会性を促進するファンド)、または第9条 (サステナブルな投資を主な目的とするファンド) のいずれかに分類されます。

欧州籍AUMの半分は、第8条ファンド (欧州AUM総額の50%) または第9条ファンド (同2%) に分類され、残余は第6条ファンドに分類されています。Morningstarは、第9条AUMのすべてと第8条AUMの3分の1弱を「サステナブル」に分類しています。つまり、欧州AUMの20%がMorningstarのサステナブル分類に該当することを意味します。2024年上半期における第8条ファンドのリターン中央値は+1.6%、第9条ファンドのリターン中央値は+1.4%でした (図6)。

2024年上半期、第8条ファンドへの資金流入は、980億ドル (前年末比1.4%増) という小規模な流入にとどまりました。これは主に、Morningstarが従来型に分類した第8条ファンドによるものであり、第2四半期には、サステナブルに分類された第8条ファンドからの資金流出は少額にとどまりました。第9条ファンドは期間中に小規模な流出が見られ、2024年上半期は、前年末比2.9%減となりました。

図6

### 欧州籍のサステナブルファンドは、従来型ファンドと第8条/第9条ファンドの両方と同等のリターンを達成

2024年上半期のリターン中央値、SFDR分類別

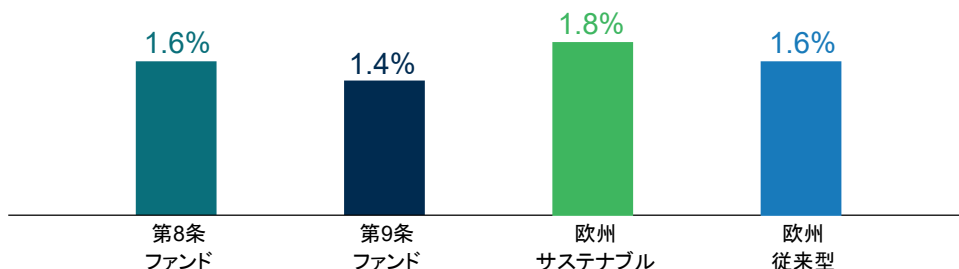
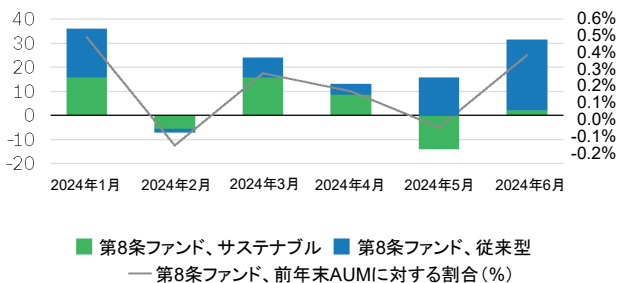


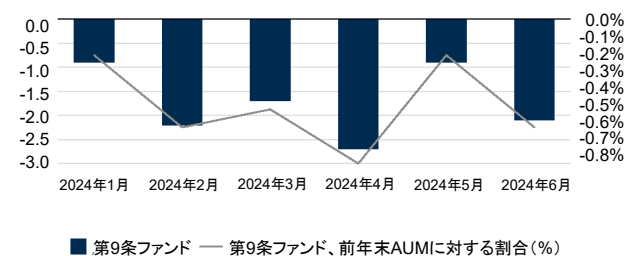
図7

### 第8条および第9条ファンドのフロー

第8条ファンドへの月次ネット資金流入 (非累積ベース、10億ドル単位)



第9条ファンドへの月次ネット資金流入 (非累積ベース、10億ドル単位)



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。



## リターン中央値、下方偏差、長期リターン

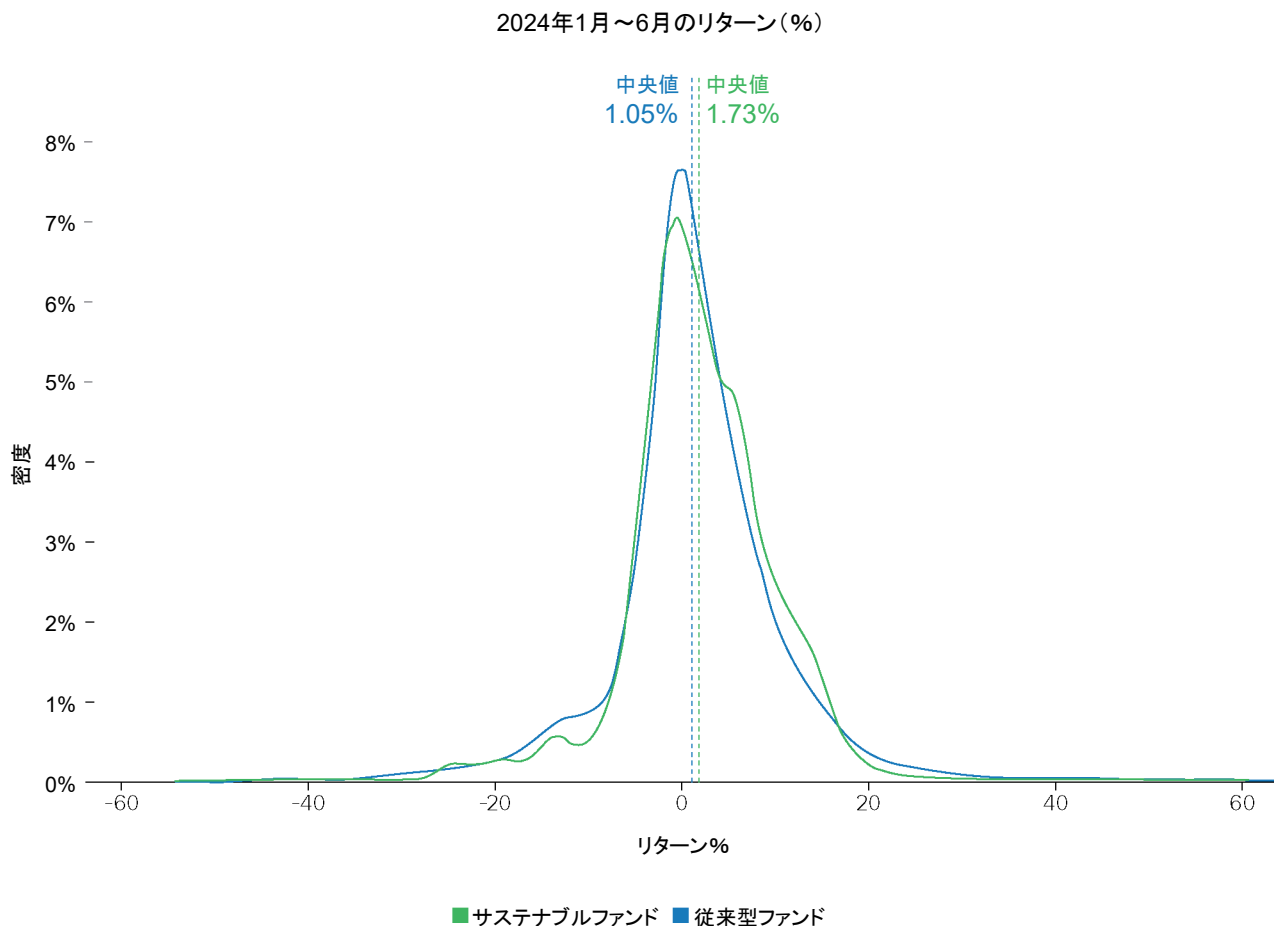
「サステナブル・リアリティ」シリーズは、ファンド規模の違いを考慮しての加重を行わずに、ファンドリターンの中央値を主な評価基準として使用しています。ファンドリターンのユニバース全体の非正規分布(リアリティシリーズが記録している2004年以降のもの)を考慮しますと、中央値が、より適切なリターンの値となります。中央値は、投資家がファンドを選択し、特定のリターンを達成する可能性をより適切に表します。図8は、2024年上半期におけるサステナブルファンドおよび従来型ファンドのリターン中央値の分布密度曲線を示しています。

### 注目すべき重要ポイント:

- **どちらの曲線も裾が長く**、最も高いリターンのファンドはプラス60%で、最も低いファンドはマイナス60%近くとなり、ファンドのパフォーマンス結果は非常に幅広くなっています。平均を使用すると、リターンは分布に多大な影響を受けるため、選択したファンド全体でそのリターンを達成する可能性を表すものではないことに注意する必要があります。
- **サステナブルファンドではプラスのリターンを出している割合がわずかに高く**、59%であるのに対し、従来型ファンドでは55%でした。投資家はサステナブルのユニバースでは、よりパフォーマンスの良いファンドを選択する傾向が強くなりました。

図8

### サステナブルファンドと従来型ファンドのリターンの密度チャート



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

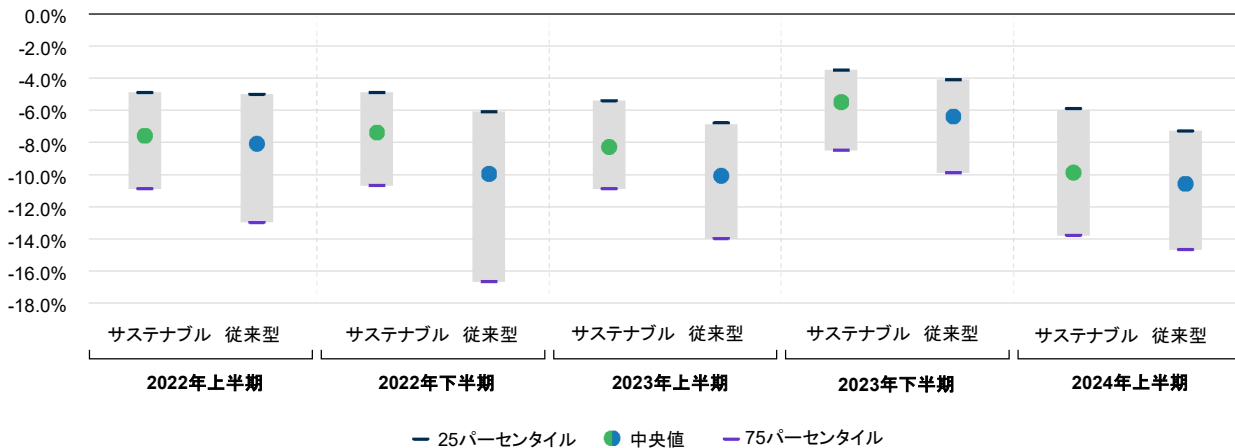
下方偏差は、複数ファンドで構成されるセットひとつについて、ある期間におけるマイナスリターンの可能性の尺度として用いられます。下方偏差の数値が低いほど、選択したベンチマーク(この分析

ではS&P500指数)に対してマイナスのリターンとなる可能性が高いことを意味します。例えば、2024年上半期では、サステナブル株式ファンドの下方偏差は-9.9%であったのに対し、従来型株式ファンドでは-10.6%でした。

図9

### サステナブル株式ファンドと従来型株式ファンドの下方偏差

下方偏差、株式ファンド

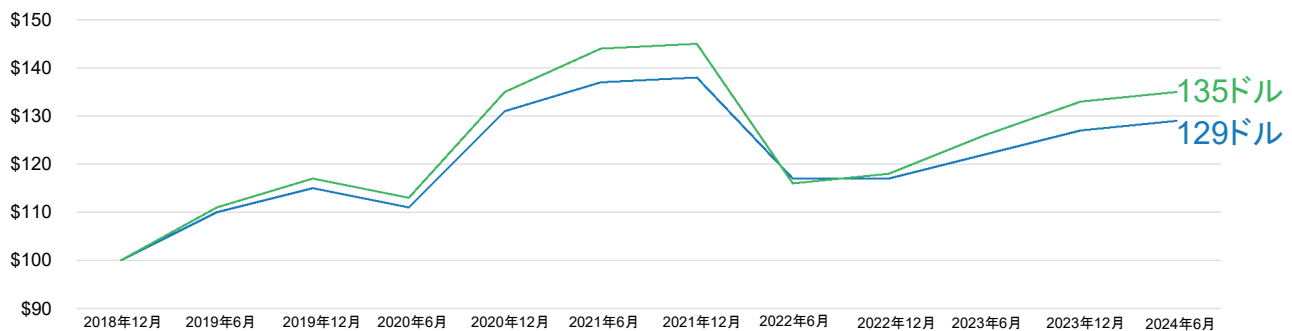


出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

図10

### サステナブルファンドと従来型ファンドの長期パフォーマンス

長期パフォーマンス  
(2018年12月=100ドル)



このチャートは、2018年12月に100ドルを投資し、その後にサステナブルファンドと従来型ファンドのそれぞれが各期間のリターン中央値を達成した場合の、パフォーマンスの様子を示しています。

■ サステナブルファンド ■ 従来型ファンド

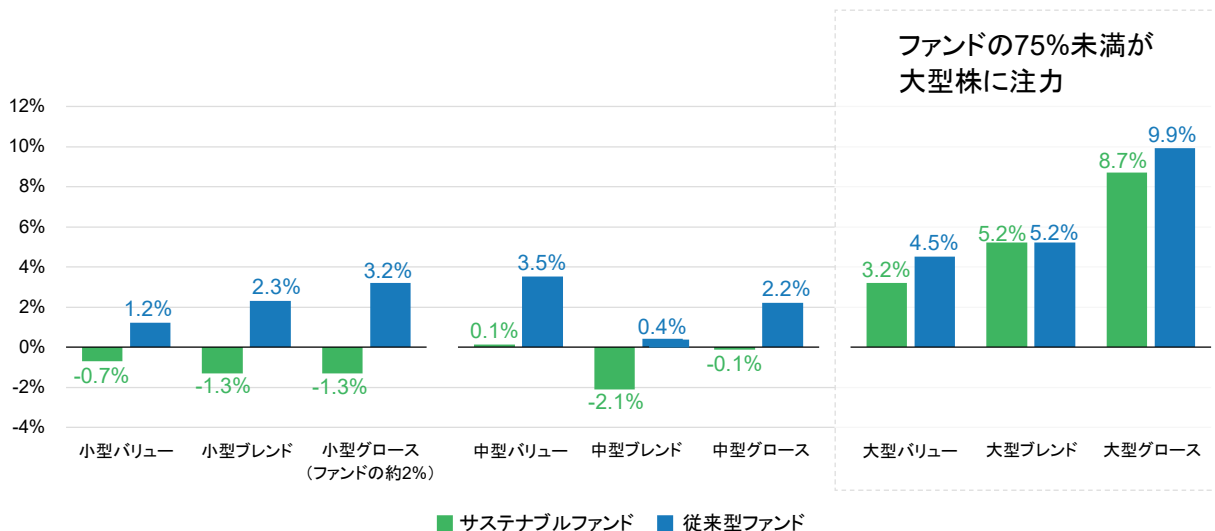
出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。線は、2018年12月を100ドルとして始まり、サステナブルファンドと従来型ファンドのリターン中央値が、複利計算で時間の経過とともにどのように推移したかを示しています。

## 株式と債券のスタイル

図11

### 株式ファンドのスタイル別リターン

2024年上半期、株式ファンドのスタイル別リターン中央値

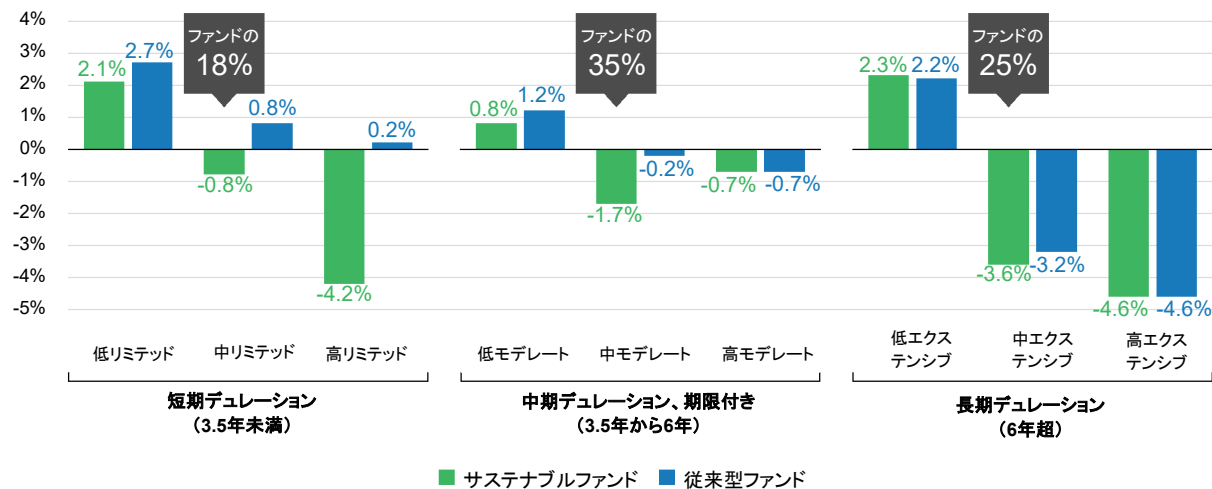


出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

図12

### 債券ファンドのスタイル別リターン

2024年上半期、債券ファンドのスタイル別リターン中央値



出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。「高」はAAA格からAA格の格付けを付与されたもの、「中」はA格からBBB格、「低」はBB格以下を意味します。

## ネガティブ・スクリーニング

2023年8月版の「サステナブル・リアリティ」の分析結果を更新しました。ファンドがネガティブ・スクリーニングの利用に関するMorningstarのデータによると、ほとんどの除外が受けら

れるAUMの割合は、過去1年間でわずかに上昇していることがわかります。

図13

### 武器、一般炭、たばこが、最も一般的に使用されるネガティブスクリーニング

ネガティブスクリーニング、2024年6月現在

ネガティブスクリーニング、 2024年6月現在	グローバル AUM、 単位10億ドル	グロー バルAUM の割合 (%)	欧州籍AUM、 単位10億ドル	欧州籍 AUMの 割合(%)	北米籍AUM、 単位10億ドル	北米籍 AUMの 割合(%)	アジア籍 AUM、 単位10億ドル	アジア籍 AUMの 割合(%)
武器	10,782	18.2%	10,166	66.5%	361	1.0%	254	3.5%
一般炭	8,127	13.7%	7,864	51.4%	197	0.6%	66	0.9%
たばこ	7,823	13.2%	7,181	47.0%	379	1.1%	263	3.6%
その他*	6,435	10.9%	5,997	39.2%	286	0.8%	149	2.0%
化石燃料	6,332	10.7%	6,069	39.7%	211	0.6%	51	0.7%
小火器	5,518	9.3%	5,102	33.4%	296	0.9%	120	1.6%
ギャンブル	3,071	5.2%	2,780	18.2%	206	0.6%	83	1.1%
アダルトエンターテイメント	2,975	5.0%	2,763	18.1%	129	0.4%	83	1.1%
軍事請負	2,638	4.5%	2,460	16.1%	131	0.4%	47	0.6%
アルコール	1,670	2.8%	1,400	9.2%	201	0.6%	66	0.9%
原子力	1,481	2.5%	1,363	8.9%	95	0.3%	24	0.3%
パーム油	845	1.4%	812	5.3%	20	0.1%	14	0.2%
遺伝子組み換え生物	634	1.1%	616	4.0%	14	0.0%	3	0.0%
殺虫剤	536	0.9%	532	3.5%	3	0.0%	0	0.0%
動物実験	288	0.5%	231	1.5%	41	0.1%	15	0.2%
毛皮および特殊皮革	204	0.3%	201	1.3%	3	0.0%	0	0.0%
人工妊娠中絶	146	0.2%	87	0.6%	57	0.2%	2	0.0%

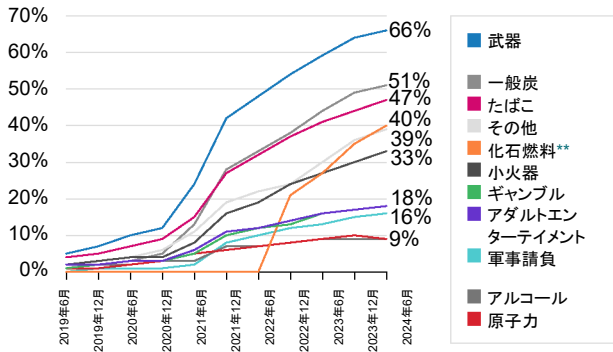
出所: モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

\*「その他」には、前述の除外項目に該当しない要因が含まれます。例えば、政府による人権侵害が懸念される国で事業を展開する企業など。

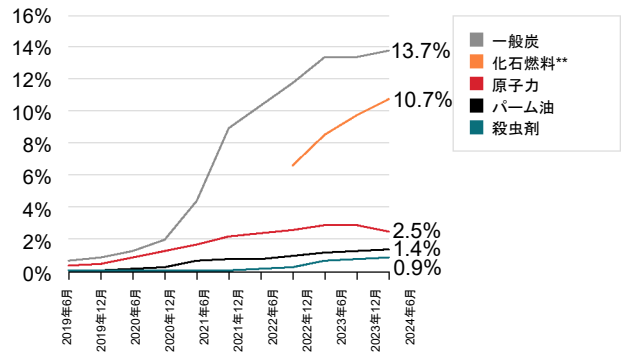
図14

### 地域別および種別別のネガティブスクリーニング概要

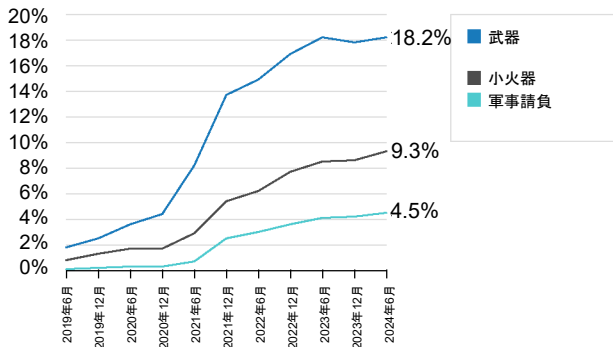
欧州ネガティブスクリーニング、欧州AUMに占める割合(%)



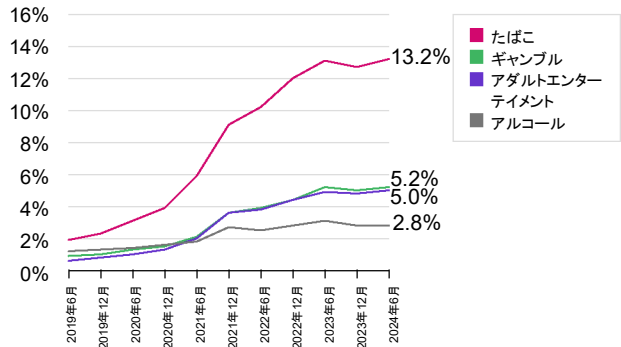
環境ネガティブスクリーニング、グローバルAUMに占める割合(%)



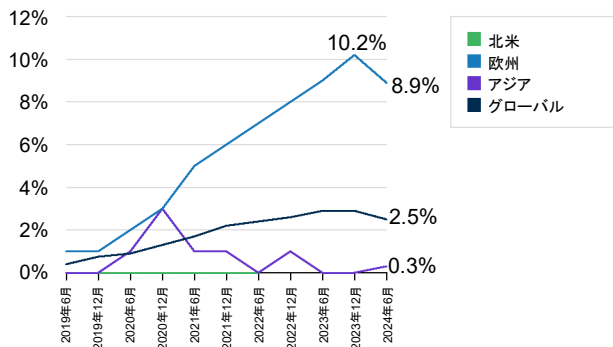
防衛関連ネガティブスクリーニング、グローバルAUMに占める割合(%)



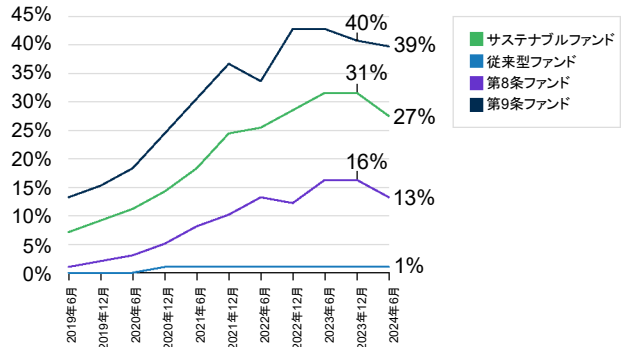
バリューベースネガティブスクリーニング、グローバルAUMに占める割合(%)



原子力を除外、AUMに占める割合(%)



原子力を除外、AUMに占める割合(%)



出所：モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所による、Morningstarデータ分析、2024年8月3日現在。

\*\*化石燃料の除外は、2022年12月から別カテゴリとして導入されました。

## ディスクロージャー

本資料は情報提供のみを目的として2024年10月に発行されたものであり、証券その他の金融商品の売買やトレーディング戦略への参加を募るものではありません。本資料は、モルガン・スタンレーのリサーチ部門が作成したのではなく、また金融取引業規制機構(FINRA)規制に定義される調査レポートでもありません。本資料は個別の投資アドバイスを提供するものではありません。本資料は読者個人の資金状況や投資目的を考慮することなく作成されています。Morgan Stanley Smith Barney LLCおよびMorgan Stanley & Co. LLC(総称して「モルガン・スタンレー」)、証券投資者保護公社(SIPC)の会員は、読者が自身の投資、法務、税務、規制、会計アドバイザーに相談した上で、本資料で言及される取引または戦略の経済的リスクとメリットならびに法的、税務、規制、会計の特徴や結果について判断されることをお勧めします。特定の投資または戦略の適切性は、投資家の個別の状況と目的によって異なります。

### 過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

本資料には将来予想に関する記述が含まれており、それが実現するという保証はありません。本資料に含まれる情報は複数の情報源からのデータに基づいており、モルガン・スタンレーは、モルガン・スタンレー以外の情報源からのデータの正確性または完全性について一切表明しません。本資料に含まれる第三者への言及は、モルガン・スタンレーによるそれらの団体に代わっての勧誘またはそれらの団体の推奨とみなされるべきではありません。

一部のポートフォリオには、環境・社会・ガバナンス(「ESG」)を意識した投資対象が含まれる場合があります。ご参考のため、環境的(「E」)要素には、気候変動、汚染、廃棄物、発行体が目指す天然資源の保護および/または保全の方法が含まれますが、それらに限定されません。社会的(「S」)要素には、発行体が従業員、株主、顧客、地域社会などの個人との関係を管理する方法が含まれますが、それらに限定されません。ガバナンス(「G」)要素には、例えば経営陣の構成、給与やインセンティブ構造、内部統制、株主や債券保有者の権利など、発行体の組織運営の方法が含まれますが、それらに限定されません。投資商品の目論見書やその他の募集要項、開示情報やマーケティング資料を注意深くお読みになり、投資商品の投資戦略にESG要素がどのように組み込まれているかを確認してください。

ESG投資はまた、サステナブル投資、インパクトアウェア投資、社会責任投資、またはダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(「DEI」)投資とも呼ばれます。一貫性に欠けた異なるESG定義と基準が業界内に存在すること、また同一の対象企業や証券に対して複数のESG格付け機関がそれぞれ異なるESG格付けを行っていることにご留意ください。背景として挙げられるのは、国際的に統一した報告および監査基準が整備されておらず、ESG格付け機関が格付けを決定する定義、方法論、手順、情報源、主観がさまざまであることです。投資対象の発行体の一部には投資一任口座(SMA)、投資信託、上場投資信託(ETF)が含まれますが、これらに限定されません。これらはESG基準に関する見解が統一されておらず、募集要項やその他の資料でうたうESG効果が誇張されている可能性があります。さらに、社会責任の基準は地域によって異なり、発行体のESG慣行やモルガン・スタンレーによる発行体のESG慣行の評価は時間の経過とともに変化する可能性があります。

ESGを意識した投資対象を含むポートフォリオや、全体的な戦略の一部としてESG基準によるスクリーニングを採用するポートフォリオは、通常の投資判断に基づくポートフォリオよりもパフォーマンスが上振れまたは下振れする可能性があります。ESG制限、ESG戦略、ESG投資を組み込んだポートフォリオは、ESG基準が適用されていないポートフォリオと同等の投資機会や市場トレンドの利点を享受できない可能性があります。採用されているESG投資戦略やテクニックが成功する保証はありません。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の運用成果等を示唆・保証するものではなく、信頼できる指標でもありません。特定のファンドに関するリスクについては、当該ファンドの目論見書やその概要を参照してください。

投資マネジャーによってESGに対して異なるアプローチを採用する場合があります。同一のテーマやトピックに関して他の投資マネジャーと異なる戦略を採ることがあります。また、投資マネジャーが投資を評価する際に依拠する情報とデータが不完全、不正確であったり、入手できないこともあり、その場合、マネジャーは投資のESG特徴やパフォーマンスを正しく評価できない可能性があります。かかるデータや情報は、自主的な報告や第三者による報告から入手することがあります。モルガン・スタンレーは、これらの情報とデータの正確性を検証しません。また、発行体の評価にあたり、かかる情報やデータの正確性、適時性、または完全性の表明または保証も行いません。したがって、モルガン・スタンレーは発行体のESG慣行に関するビジネス慣行を正確に評価できないことがあります。結果として、ESG投資商品の比較が困難になります。

特定のESG投資やESG戦略の適切性は、投資家個人の状況と目的によって異なります。投資元本の価値とリターンは、市況の変化に応じて変動します。

分散化は、利益の保証や、低迷する金融市場における損失からの保護を行うものではありません。

本資料で言及されている証券は情報提供を目的としたものであり、当該証券の購入または売却を推奨するものではありません。本レポートで議論された証券は、全てのいかなる投資家に適合するものではありません。議論された証券取引または保有が利益を生んだり、または生むであろうと想定すべきではありません。投資家の皆様におかれましては、特定の投資や戦略をご自身で独自に評価し、さらにファイナンシャル・アドバイザーの助言を得ることをお勧めします。特定の投資または戦略の適切性は、投資家の個別の状況と目的によって異なります。

モルガン・スタンレーは、信頼性が高く包括的な情報を使用するよう最大限の努力を払っていますが、その情報が正確または完全であることを保証するものではありません。本レポート内の意見や情報に変更された場合、当社はそれを通知する義務を負いません。

本資料で使用している実績データは、過去のパフォーマンスを示すものであり、関連する将来の結果を保証しません。

市場への投資には市場変動のリスクが伴います。株式、投資信託、上場投資信託(「ETF」)、クローズドエンド型ファンド、単位型投資信託など、あらゆる種類の投資の価値は、さまざまな期間にわたって増加または減少する可能性があります。

上場投資信託への投資には、経済や政治情勢、金利の変動、株価のトレンドなどの要因によって引き起こされる市場変動など、関連証券市場で取引される幅広い株式ポートフォリオへの投資と同様のリスクが伴います。ETF投資の投資リターンと元本価値は変動するため、投資家がETFを売却した場合、売却額が当初の投資額を上回ることも下回ることもあります。

単一セクターに対する投資は、その範囲の狭さゆえに、多数のセクターや企業に対する分散投資に比べてボラティリティが高くなる傾向があります。

株式は、企業、業界、市況、一般的な経済環境に関するニュースに反応して変動する可能性があります。配当を支払う企業はいつでも配当を減額または停止することができます。

成長投資は利益を保証したり、リスクを排除したりするものではありません。これらの企業の株式は比較的割高な評価を受ける可能性があります。これらの割高な評価のため、グロース株への投資は、グロース期待がそれほど高くない企業への投資よりもリスクが高くなる可能性があります。

債券には金利リスクがあります。金利が上昇すると債券価格は下落します。一般的に、債券の満期が長いほど、このリスクに対する感受性が高まります。債券にはコールリスクが発生する可能性もあります。コールリスクとは、発行者が予定された満期前に、任意で債務の全部または一部を償還するリスクです。債券の市場価値は変動する可能性があり、市場環境の変化や発行体の信用力の変化により、満期前の売却による収益は当初投資額または満期価値より増減する可能性があります。米国の企業および地方自治体が発行する債券は、定期的な固定金利の支払いと満期時の元本返済という形でリターンを提供します。固定収入が得られる投資はインフレ率が低い時期には有利ですが、インフレ率が上昇する時期には投資家のプロテクションにはなりません。政府証券の利子収入は連邦所得税の対象となりますが、州および地方レベルでは税金が免除されます。

債券ファンドと債券保有には、ファンドが保有する原債券に関連するものと同じ金利、インフレ、信用リスクがあります。債券ファンド、および債券を大量に保有するファンドからの元本償還は保証されていません。

モルガン・スタンレー、その関連会社、およびMorgan Stanley Financial Advisorsは、税務、会計、法律に関する事項に関してはアドバイスを提供しません。個別の税金および税務計画に関しては税理士に、法的問題に関しては弁護士にご相談ください。

**S&P 500 Index指数について:** Standard & Poor's (S&P) 500指数は、広く保有されている米国の大型株500銘柄のパフォーマンスを追跡します。インデックスは管理されておらず、インデックスに投資することはできません。

信用格付けは、国内で認知された統計格付け機関によって付与されており、発行体の信用力をはかる尺度の一つとなっています。発行体の信用格付けの実際の低下または予想される低下、あるいは発行体の信用リスクを考慮して市場が要求するクレジット・スプレッドが拡大すると、発行体が発行した証券の市場価値に悪影響を及ぼす可能性があります。信用格付けは変更される可能性があります。

モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の詳細情報については、[morganstanley.com/sustainableinvesting](https://morganstanley.com/sustainableinvesting)をご確認ください。

本文は「[Sustainable Reality](#)」の参考和訳です。本文と原文に相違がある場合は原文が優先します。

©2024 Morningstar. 無断転写および転載を禁じます。本資料に記載されている情報は、(1) Morningstarおよび/またはそのコンテンツ提供者の独占的財産であり、(2) コピーや配布は禁止されており、かつ (3) その正確性、完全性、最新性は保証されません。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用によって生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の運用結果を保証するものではありません。